

○委員長（前田せつよ）

引き続き、議案第20号 令和2年度開成町下水道事業会計予算を議題といたします。

下水道事業会計の歳入歳出予算について、詳細質疑を行います。質疑をどうぞ。
7番、井上三史委員。

○7番（井上三史）

7番、井上三史です。

予算書は312ページ、13ページ、説明書は82ページ、83ページの一番上の部分のところで、やはり基本的なところを確認させていただきます。下水道使用料として、見込みといたしまして、歳入見込みといたしまして2億4千306万4千円。その内訳を見ますと、5千786件で前年度比15万9千円の減という見込みで算出されております。

予算書の310ページの注記の一番上に表現されているように、令和元年度から地方公営企業法を適用、地方公営企業会計基準によると。ちょうど1年たって2年目の1年経験してでの予算計上だと思われますけれども、昨年度は5千717件、単純に計算で割ってみますと1件当たり4万2千500円程度で予算を見込んでいたと。今年度は若干、69件増えて、接続が約70件増えた中で5千786件の中で、見込みが単純に割りますと4万2千円で、約500円ぐらい、1件についての見込みを落としての計上となっているわけでございますけれども、この辺のところのことで伺いますけれども、例えば、国民健康保険だと回収率95.5%とか、そういうふうに見込みをちょっと下げて回収している状況があるわけですが、同じように下水道においても回収見込みは、若干、その辺、加味してでの予算計上になっているのかどうか、この辺のところを、まず1点ほど確認させていただきます。

○委員長（前田せつよ）

上下水道課副主幹。

○上下水道課副主幹（川口浩一）

上下水道課、川口です。

ただいまの質問に答えさせていただきます。

下水道使用料につきましては、こちらにつきましては徴収率等は加味してございません。調定額を、そのまま予算計上しているところでございます。

以上です。

○委員長（前田せつよ）

7番、井上三史委員。

○7番（井上三史）

そうしますと、接続件数が増えれば、当然、予算収入も増えてくるのかなというのを単純に思うわけでございますけれども、この辺、昨年度から若干、1件につき500円ぐらい下げての見込みというのは、この辺のところはどのように理解した

らよろしいのでしょうか。

○委員長（前田せつよ）

上下水道課副主幹。

○上下水道課副主幹（川口浩一）

上下水道課、川口でございます。

ただいまの質問に答えさせていただきます。

下水道使用料につきましては、水道のメーターを使いまして料金を賦課しているところでございます。水道と同じような形で、単身世帯の増加と核家族化が進行していることによって、やはり基本料金の1立米から20立米の利用者が増えているところがございますので、そちらの部分で収益が上がってこないということで捉えてございます。

以上です。

○委員長（前田せつよ）

7番、井上三史委員。

○7番（井上三史）

その収益が上がってこない現象については、人口増とは余り、これは接続ですから、住んでいる場所によって、みんな違う。ただ、確実なのは接続件数ですよ。接続件数1件について、下がってきているという。要するに、メーター上、下がってきているという確認ですか。ああ、そうなのですか。ちょっと理解に、いまいち難しいところがあるのですけれども、その辺のところ、補足説明がありましたら、よろしくお願いたします。

○委員長（前田せつよ）

上下水道課副主幹。

○上下水道課副主幹（川口浩一）

上下水道課、川口でございます。

ただいまの質問にお答えさせていただきます。

上水道使用料につきましても、水道料金のメーターに基づきまして、こちらは料金を賦課させていただいておりますので、当然、水道料金と同じような現象が出てきます。ですので、こちらの水道料金と同様に、下水道使用料につきましても下がってきているということになってございます。

以上です。

○委員長（前田せつよ）

上下水道課長。

○上下水道課長（熊澤勝己）

今の川口の説明に補足させていただきます。

下水道の使用料につきましては、まず、大きく二つに分かれております。一つは、今、言われた一般家庭での排水の使用料と、あと、開成町の場合ですと企業がありますので企業の排水という部分で、その部分が占めております。一応、来年度、予

算の使用料の予測をした中では、企業のほうは今年度と同等ぐらいの排水、同等という形の中で使用料を見込んでおります。この辺は、調査をした中で、来年度の動向を調べた中で調べております。あと1点は一般家庭ということで、先ほど川口が言ったとおり、水道のメーターと同じ量を排水したという形の中で使用料を賦課させていただいていますので、水道使用量の1件当たりが減少している中で、やはり使用料が減ってきてしまっていると、それが下水の排水の使用料にも影響が出てきていると、こちらでは分析をしております。

○委員長（前田せつよ）

4番、湯川委員。

○4番（湯川洋治）

今の質問と同じ場所なのですけれども、下水道使用料について伺います。今まで下水道使用料を払っていない家庭、すなわち井戸を持っている、自家用の井戸ですね、この方から、来年度、今年度2年度の予算について徴収をされるというお話を聞いたのですけれども、この予算の中には井戸を持っていて今まで下水道使用料を払っていない方の予算分というのは入っているのですか。

○委員長（前田せつよ）

上下水道課副主幹。

○上下水道課副主幹（川口浩一）

上下水道課、川口でございます。

ただいまの質問にお答えさせていただきます。

ただいま御質問いただいた内容につきましては、本年度の事業といたしまして井戸水の誤接続調査という形で町内の対象者を訪問させていただいているところでございます。そこから下水道に流している、井戸水を下水道に流している方が数名、見つかっておりますので、今後、

こちらにつきましては、料金を賦課させていただきたいということではお願いに参っているところでございます。ですから、今現在、行っておりますので、当初予算を計上する際には、その部分については考慮せずに予算計上をしております。

以上です。

○委員長（前田せつよ）

4番、湯川委員。

○4番（湯川洋治）

一応、その方から御相談を受けて、今まで、要するに、自己用の井戸を使っていますので、ほとんど下水道料金は0、基本料金は払っているのかな、下水道料金は、水道メーターがないものですから、使った分の使用料というのは払っていないわけですが、これ、開成町の下島地区の下水道設備というのは相当前からあるわけですね。ずっと下水道料金を払っていなかったわけなので、今になって払ってくださいというので、すごく憤慨していますという話を聞いたのです。この辺の説明を、どうやってされていくか。役場としては説明しているのでしょうけれども、

その方がちゃんと理解できるように説明していただきたいと思っています。

○委員長（前田せつよ）

ほか、質疑はございませんか。

5番、茅沼委員。

○5番（茅沼隆文）

茅沼です。

下水道事業全般についてお聞きしたいのですが、今、接続可能世帯数が明記されていると思うのですが、その中で、なおかつ、まだ接続されていない方がいらっしゃる。その方たちは合併浄化槽等を使っていらっしゃるのだらうと思うのですが、また、それなりにいろいろな理由があると思うのです。それなりの理由はいろいろとさておいても、せつかく接続ができるような設備を、下水管を埋めたりして、やっているわけだから、1件でも、そういう接続できるのにしないというところはなくしていかなくてはいけないと思うのです。その辺を、どのように、これから進めていくのかという考え方、方針をお聞きしたいのと、もう1件。

昨今、地震が来て下水管の接続しているところが剥がれてしまうという大変なことになってしまうといけませんので、先般、説明のときにもありましたけれども、ゴムを使って耐震化を図るという話がありましたけれども、まだ、あと何カ所ぐらい残っているのかというのを把握されていればお聞きしたいのだけれども。件数は、かなり大変だろーと思えます。だけど、それを順次、きちんと耐震化していかないと、いざというときになって大変なことになってしまうので、その辺の取り組みに対する考え方をお聞きしたいと思えます。

○委員長（前田せつよ）

上下水道課副主幹。

○上下水道課副主幹（川口浩一）

上下水道課、川口でございます。

ただいまの質問にお答えさせていただきます。まず、未接続について、未接続世帯について御説明をさせていただきます。

現在、開成町につきましては、接続の可能なところで未接続件数につきましては217件、こちらは1月31日現在ということで確認がとれてございます。その中で、町の対応といたしましては、本年度、全件に通知をしまして、接続について促す形をお願いをしているところでございます。

それと並行となるのですが、まず、下水道の供用開始が始まって新しい平成30年度、平成29年度、28年度と、この3カ年の対象者の方を重点的に訪問させていただきまして、接続のお願いをしてきたところでございます。その中で、良い返事もいただけたところはあるのですが、なかなか経済的な問題で接続ができないとか、高齢のために家が今後どうなるか分からないとかという世帯もございましたので、そういったところにつきましては、今後、接続について検討していただきたいといったところを含めて、業者さんに見積もりをとって計画を立てていただ

きたいと、接続に対しての計画を立てていただきたいといったところの願いもしてきております。

以上です。

○委員長（前田せつよ）

上下水道課副主幹。

○上下水道課副主幹（加藤康智）

上下水道課の加藤と申します。

2点目の質問、耐震性のゴムの関係でございます。

茅沼委員が言われたとおりに、下水道につきましては、マンホールと管をつなげるところに伸縮性があるゴムの継ぎ手を使っている状況です。これは前も申したとおり、平成7年の阪神大震災のときに、マンホールと管との継ぎ手は耐震性があるものをつけましょうということになりまして、開成町につきましては平成8年から、サンタックキャップというゴム性のある継ぎ手を使っております。現在、平成8年からの率ですね、今、全体で約59キロ、下水道管がある中で、平成8年度からの整備延長が約34キロありますので、約58%、耐震性の継ぎ手を使っている状況になります。

以上になります。

○委員長（前田せつよ）

5番、茅沼委員。

○5番（茅沼隆文）

現状は分かりました。なので、これからどうするのかということも含めてお聞きしたかったのです。未接続世帯に対する説明、説得は、28、29、30年の3年間をかけてやった。では、来年度はやらないのという質問が当然、出てくるよね。だから、あと217件あるということなので、どのようにして説得して進めていくのかということ、これからどう取り組んでいくのかをお聞きしたい。それから、今の下水管の問題についても、あと25キロ残っているのですか、それを、これからどう取り組んでいくのかということも、あわせてお聞きしたいと思うのです。

下水管に接続するというのは、せっかく町が下水管の設備を整えているのだから、それに接続するというのは町民の義務だろうとも思うのだよね。だから、その辺のところをどう説得してやっていくのか、これから残っている世帯に対する取り組み方、それから耐震性に対する取り組み方をはっきりと教えてください。

○委員長（前田せつよ）

上下水道課副主幹。

○上下水道課副主幹（川口浩一）

上下水道課、川口でございます。

ただいまの質問の中で、未接続について御説明をさせていただきたいと思っております。先ほど委員さんのほうでちょっと誤った御理解をされている部分がありましたので、そちらを再度、説明させていただきます。

28から29年度の供用開始の対象者につきましては、本年度、重点的に訪問を行って接続のお願いをしてきたというところが実際のところでございます。それ以外の方につきましては、来年度以降、順次、全件、回れるような形で対応をしていきたいということで考えてございます。

以上です。

○委員長（前田せつよ）

上下水道課副主幹。

○上下水道課副主幹（加藤康智）

上下水道課の加藤と申します。

もう一点の今後の耐震性の関係等々の関係に、お答えさせていただきます。

言われたとおり、地震等々があると、飲み水も大切ですし排水も大事なことになってくると思います。今後なのですけれども、今現在でも管路調査、マンホール、管を見ながら、悪いところは直していくという事業をやっております。その際に、マンホールとの継ぎ手の部分が悪ければ、今ある耐震性のあるゴム手に変えながら地震に強い下水道管をつくっていければなど思っているところでございます。

以上です。

○委員長（前田せつよ）

ほか、質疑はいかがでしょうか。よろしいですか。

（「なし」という者多数）

○委員長（前田せつよ）

以上で議案第20号 令和2年度開成町下水道事業会計予算についての質疑を終了いたします。

暫時休憩いたします。

なお、全会計において詳細質疑が終了いたしましたので、説明員の方の出席は、ここまでで結構です。お疲れさまでございます。なお、委員におかれましては、議会全員協議会室へお集まりください。

午前11時04分